

## 日本男子、チームスプリントで銅 パリ五輪と同じメンバーで悲願のメダル 太田海也

### 「納得の走りがあった」

自転車トラック種目の世界選手権第1日は16日、当地で行われ、男子チームスプリントはパリ五輪と同じ長迫吉拓(チームブリヂストンサイクリング)、太田海也(岡山・121期)、小原佑太(青森・115期)で挑んだ日本が銅メダルを獲得した。予選は3位、1回戦はコロンビアに勝利し、3位決定戦ではパリ五輪2位の英国を破った。また、中距離では女子スクラッチの垣田真穂(早大)が12位、男子4000メートル団体追い抜きの日本は17日にドイツと3位決定戦に臨む。

5位に終わったパリ五輪のチームスプリントから2カ月余り。同じ3人で挑んだ世界選手権でメダルをつかんだ。過去にこの大会のこの種目で表彰台に立った日本チームはない。3位決定戦で破った英国はパリ五輪メンバーとは異なっていたとはいえ、歴史を作り、日本の進化を証明するメダルとなった。短距離エースであり、要の第2走が担当の太田は「相手メンバーを見て最低限メダルだと思ってやっていた。自分たちの力からも納得の走りがあった」と素直に喜んだ。

誰よりも安心したのは最年長の長迫だろう。世界トップクラスの第1走のスペシャリストながら、パリ五輪では1回戦のスタートでタイヤがスリップするタイムロス。地元フランスに敗れてメダル獲得の可能性が消えた。誰よりも辛い経験を経ただけに「五輪を除けばタイムもいい。それを3本そろえられた」と胸を張った。

このメダルは3人の心をつなぎ留める意味でも大きい。第3走の小原は「僕のラップタイムがもう少し良ければもっと上のメダルを取れていた。でも世界選手権で取れなければ五輪でメダルなんて言えない。次の五輪への一步を進められたと思う」と悔しさをにじませながらも前を向いた。3人が目指す先は一つ。この銅メダルは最高の励みになるはずだ。

【デンマークバレラップ八手亦和人】